

## 資料4

平成31年4月11日  
生涯学習計画策定委員会資料  
教育部生涯学習スポーツ課

# 次第6～10資料

---

# 6

## 生涯学習の定義

# 生涯学習の定義～現在の計画より～

教育基本法における主として行政が行う社会教育、学校教育、家庭教育への支援のほか民間企業や市民、団体が自主的に行う教育活動を含めて「生涯学習」ととらえ、これを基本とします。

ただし、学校教育の推進については、平成21年度に策定の「武蔵野市学校教育計画」に委ねることとし、また、この計画が市の行政計画であることに鑑み、「民間の活動」については、行政分野からの働きかけが可能な連携施策を範囲とします。

# 生涯学習の定義～現在の計画より～

生涯学習：理論上、あらゆる学習を包含するもの

## 計画における生涯学習：

家庭・学校を含み広く社会で行われる学習活動

### 社会教育

- 成人教育
- 青少年教育
- 社会教育関係団体活動支援
- 図書館
- 自然・野外活動体験市民活動支援
- 芸術振興
- スポーツ振興

### 家庭教育

### 学校教育

※武蔵野市学校教育計画において方向性等を示す。

### 民間による教育活動

※行政分野からの働きかけが可能な連携施策を範囲とする。

自己学習活動  
偶発的学習

# 7

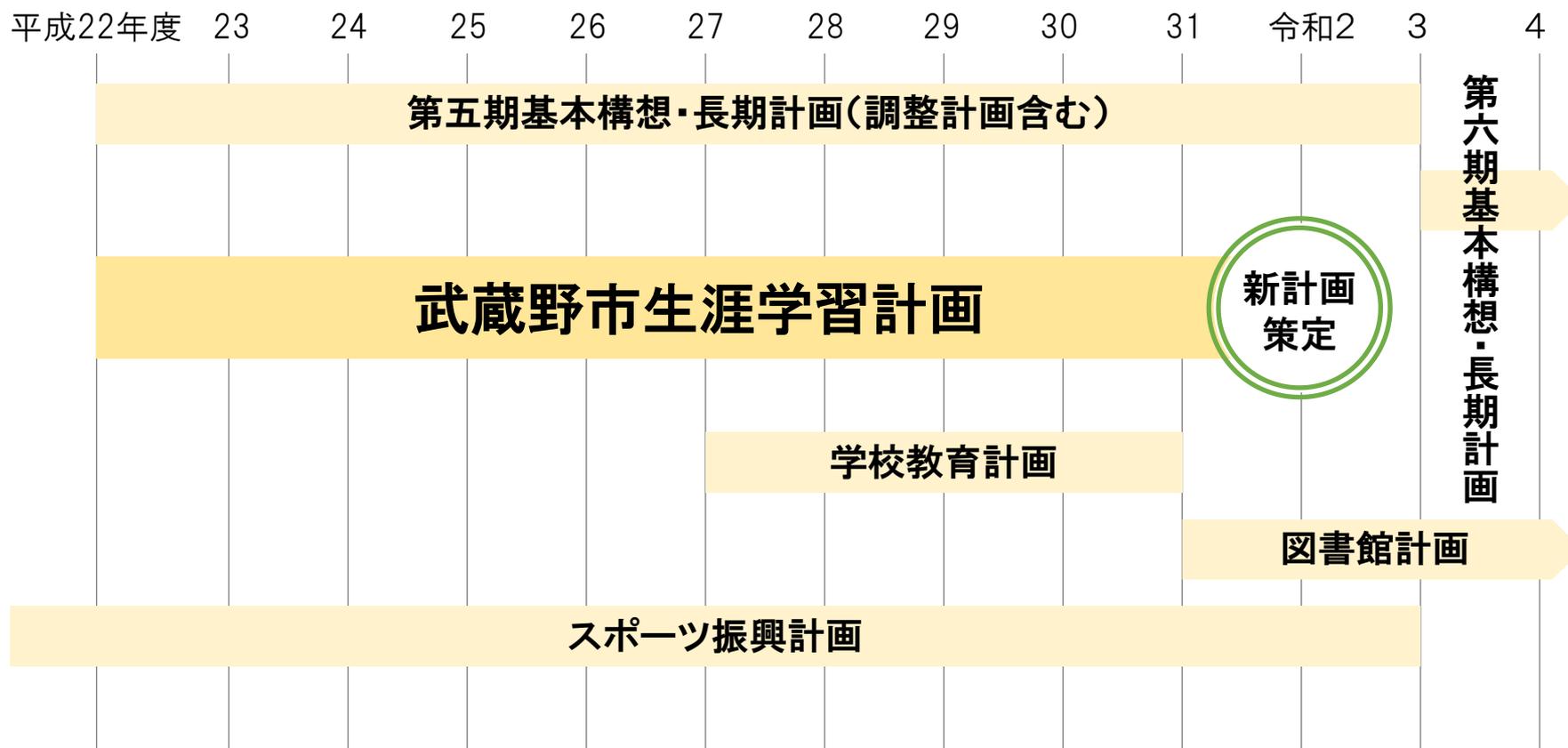
## 計画策定の背景・目的

# 計画策定の背景～現在の計画より～

本市がめざすべき生涯学習について、市民と行政が共に考え、方向性を示すとともに、**本市における生涯学習事業を体系化し、生涯学習施策を総合的に推進すること**を目的として、武蔵野市生涯学習計画を策定します。

# 計画期間～現在の計画より～

現在の計画は平成31年度末までの計画期間のため新たに策定



# 8

## 今後のスケジュール

# 委員会日程と議題(1/2)

開催日時	内容
4月11日(木)	<b>第1回策定委員会</b> ○委嘱式／アンケート調査結果の説明／今後の流れ等
5月9日(木)	<b>第2回策定委員会</b> ○今後の生涯学習に期待されること(牧野氏講話) ○生涯学習が担うべき役割と方向性等について(意見交換) ※同日16:30～17:30で教育委員との懇談を予定
6月20日(木)	<b>第3回策定委員会</b> ○現計画進捗・評価及び課題について(報告＋意見交換) ○類型別施設整備計画について(報告) ○基本理念、施策の体系について(意見交換)
7月11日(木)	<b>第4回策定委員会</b> ○基本理念、将来像等について(意見交換)
8月8日(木)	<b>第5回策定委員会</b> ○類型別施設整備計画について(意見交換) ○骨子案について(報告＋意見交換)
9月12日(木)	<b>第6回策定委員会</b> ○骨子案の検討、中間のまとめについて(報告＋意見交換)

# 委員会日程と議題(2/2)

開催日時	内容
10月10日(木)	<b>第7回策定委員会</b> ○中間まとめについて ○教育委員会(11/7)、議会(11/18)報告について
11月14日(木)	<b>第8回策定委員会</b> ○中間まとめ、パブリックコメントについて ○生涯学習フォーラム(仮称)について
12月1日～31日までパブリックコメントを実施	
12月15日(日)	<b>生涯学習フォーラム 基調講演</b> ○武蔵野市の生涯学習に期待されること
1月23日(木)	<b>第9回策定委員会</b> ○パブリックコメントの対応 ○教育委員会(2/5)報告について
2月13日(木)	<b>第10回策定委員会</b> ○報告書の確定(生涯学習計画書案について)

# 9

## 計画策定にあたっての前提

# 現在の計画について

# 現在の計画における課題認識～現在の計画より～

- 生涯学習事業の全体像の把握
- 機能連携を可能とする場の創設による市民活動の推進
- 「活動」に根ざした団体支援の必要性
- 多様な事業主体との関係
- 生涯学習情報の提供手法
- 学習活動のさらなる発展

## ともに学び、つなぎあうひと・まち・文化

知ることに親しみ、学ぶことを求める人々の知的好奇心に応え、学びたいときに、いつでも学びはじめることができるようなきっかけづくりや環境を整備します。

また、市民が学びを継続することを通して自分づくりやまちづくり、地域に関わる人づくりができるように支援し、成熟した生涯学習社会の実現をめざします。

# 現在の計画の役割～現在の計画より～

- 学習目的を共有する人々の活動を活性化し、**武蔵野市らしいコミュニティづくり**に寄与する
- 学びに参加しやすい環境づくりを進め、**共に学ぶ層**を拡げる
- 多様な担い手による事業展開をめざし、**生涯学習を通じた市民協働の推進**に寄与する
- 多様な事業主体や市民による**自律した生涯学習活動を支援する**
- 武蔵野市というまちの特性を活かし、**新しい文化を創造したい**と思う人々の**響き合う心＝「交響力」**を応援する

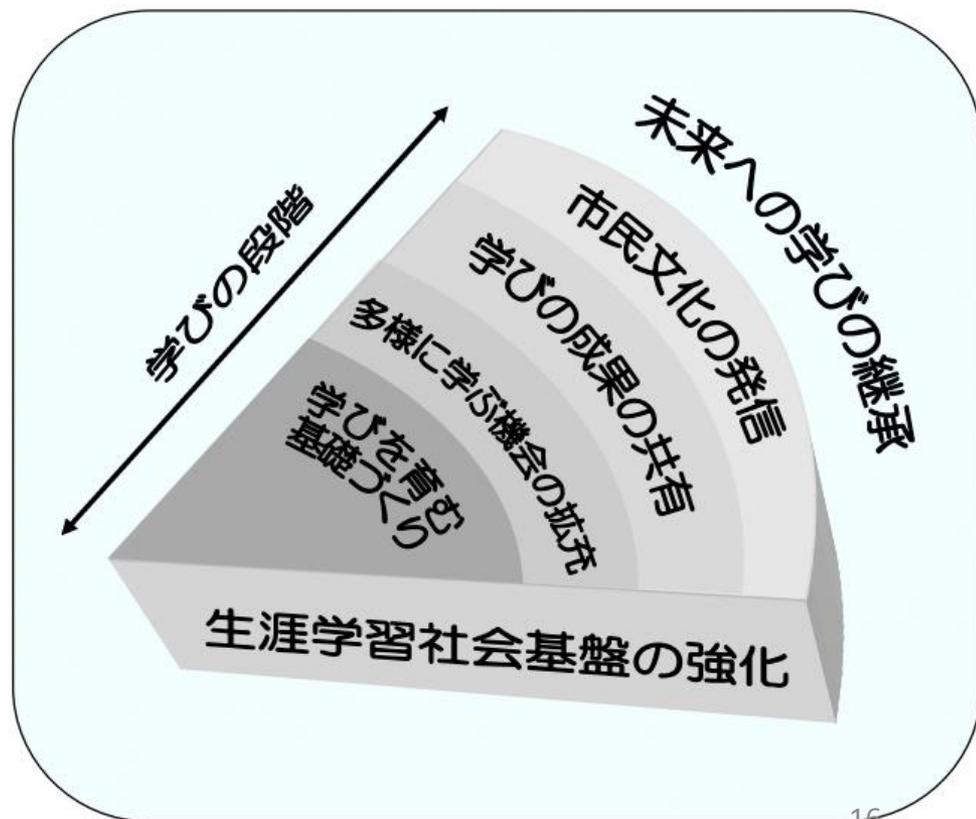
# 現在の計画における6つの目標～現在の計画より～

## 学びの段階としての目標

- 学びを育む基礎づくり
- 多様に学ぶ機会の拡充
- 学びの成果の共有
- 市民文化の発信

## 継続・継承のための目標

- 生涯学習社会基盤の強化
- 未来への学びの継承



# 市の関連計画について

# 関連する武蔵野市の行政計画

## 上位計画

- 第六期長期計画(策定中)

## 生涯学習分野

- 武蔵野市スポーツ振興計画
- 武蔵野市図書館基本計画

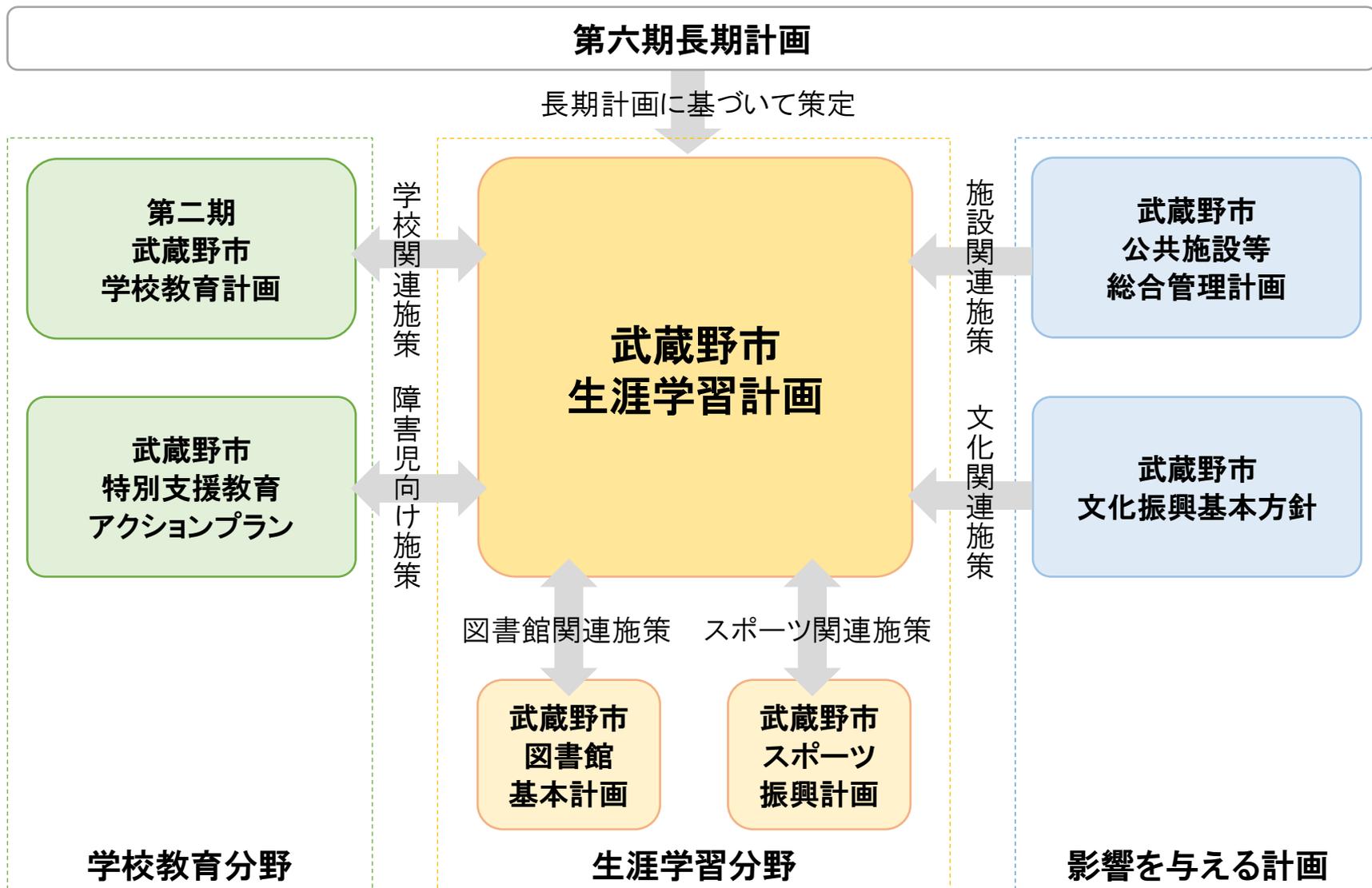
## 学校教育分野

- 第二期武蔵野市学校教育計画
- 武蔵野市特別支援教育アクションプラン

## その他

- 武蔵野市公共施設等総合管理計画
- 武蔵野市文化振興基本方針
- 武蔵野市障害者計画・第5期障害福祉計画

# 関連する行政計画との関係



# 国等の動向

# 第3期教育振興基本計画：文部科学省(2018)

## 教育振興基本計画とは

- 教育基本法に則り、国の教育振興に関する施策の推進のために政府として策定する計画
- 2030年以降を見据えた2018～2022年までの教育施策が示されている。

## 教育政策の重点事項

- 「超スマート社会(Society5.0)」の実現に向けた技術革新が進展するなか「人生100年時代」を豊かに生きていくためには、「人づくり革命」、「生産性革命」の一環として、若年期の教育、生涯にわたる学習や能力向上が必要
- 教育を通じて生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」を最大化することを今後の教育政策の中心に据えて取り組む

# 第3期教育振興基本計画：文部科学省(2018)

## 今後の教育政策に関する基本的な方針

方針1 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する

方針2 社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する

**方針3 生涯学び、活躍できる環境を整える**

方針4 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する

方針5 教育政策推進のための基盤を整備する

### 方針3の教育政策の目標

- ① 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進
- ② 人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進
- ③ 職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進
- ④ 障害者の生涯学習の推進

# 障害者の生涯学習の推進方策:文部科学省(2019)

## 背景

- 第3期教育振興基本計画にて施策「学校卒業後における障害者の学びの支援」が示されたことを受けて、有識者会議にてまとめられた。

## 目指す社会像

- 「誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会」

## 重視すべき視点

- 誰もが、障害の有無にかかわらず学び続けることのできる社会であること
- 障害者が、健康で生きがいのある生活を追求することができ、自らの個性や得意分野を生かして参加できる社会であること

# 障害者の生涯学習の推進方策:文部科学省(2019)

## 障害者の生涯学習推進において特に重視すべき視点

- 本人の主体的な学びの重視
- 学校教育から卒業後における学びへの接続の円滑化
- 福祉、労働、医療等の分野の取組と学びの連携の強化
- 障害に関する社会全体の理解の向上

## 障害者の生涯学習を推進するための方策

- 学校卒業後における障害者の学びの場づくり
- 障害の有無にかかわらず共に学ぶ場づくり
- 障害に関する理解促進
- 障害者の学びを推進するための基盤の整備

# 人づくり革命基本構想：官邸(2018)

## 人づくり革命基本構想とは

- 人生100年時代と言われるなか、高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人々が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくる必要があるとして、今後の教育のあり方が示された。

## 生涯学習にかかわる部分：リカレント教育

- 「より長いスパンで個々人の人生の再設計が可能となる社会を実現するため、何歳になっても学び直し、職場復帰、転職が可能となるリカレント教育を抜本的に拡充する。」と記載されている。

# 学習指導要領:文部科学省

## 学習指導要領とは

- 全国の学校における教育の水準が一定に保てるよう、文部科学省が定めている教育課程(カリキュラム)の基準として策定
- 新しい学習指導要領は2020年度から段階的に施行

## 学校外での生涯学習にかかわる部分:社会に開かれた教育課程

- よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。

### 社会に開かれた教育課程で重視されること(抜粋)

- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

参照:幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(2018)

# 人口減少時代の新しい地域づくりに向けた 社会教育の振興方策について:文部科学省(2018)

## 背景

- 人口減少社会において、関係者の連携と住民の主体的な参画のもと、新しい地域づくりを進めるための学習・活動のあり方を中心とした今後の社会教育の振興方策に関する中央教育審議会による答申

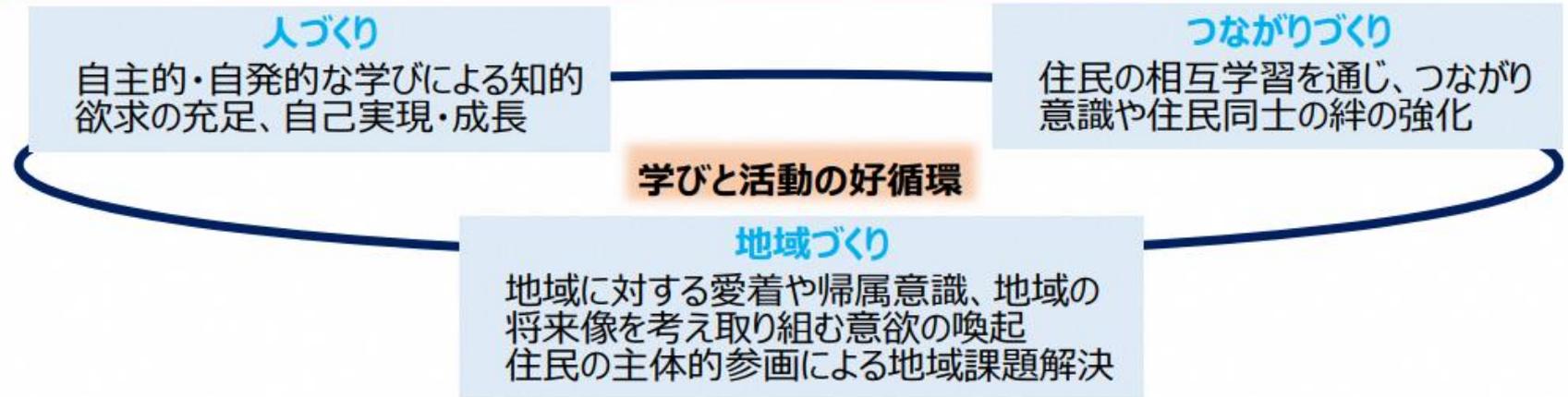
## 今後の地域における社会教育のあり方

- 地域における社会教育の意義と果たすべき役割＝「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり
- 社会教育は個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割があり、その鍵となるものが学びの場を通じた住民相互のつながりである。

参照: 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(2018)

# 人口減少時代の新しい地域づくりに向けた 社会教育の振興方策について:文部科学省(2018)

社会教育：個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割



## 2. 新たな社会教育の方向性 ～開かれ、つながる社会教育の実現～

### 住民の主体的な参加のためのきっかけづくり

社会的に孤立しがちな人々も含め、より多くの住民の主体的な参加を得られるような方策を工夫し強化

### ネットワーク型行政の実質化

社会教育行政担当部局で完結させず、首長、NPO、大学、企業等と幅広く連携・協働

### 地域の学びと活動を活性化 する人材の活躍

学びや活動と参加者をつなぎ、地域の学びと活動を活性化  
する多様な人材の活躍を後押し

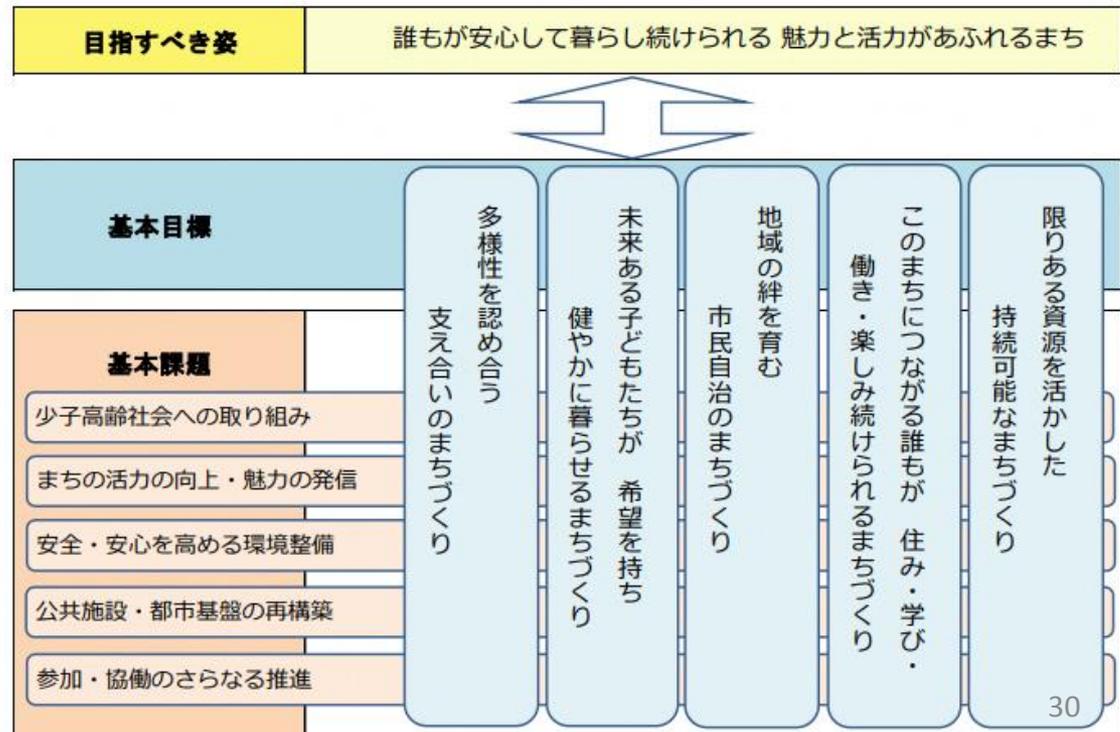
開かれ、つながる社会教育へ

# 武蔵野市の上位計画等

# 第六期武蔵野市長期計画(1/2)

## 長期計画とは

- 武蔵野市が実施するすべての政策がその内容に基づくことを原則として策定する計画
- 現在、第六期武蔵野市長期計画の策定する上でのたたき台となる討議要綱を策定済み



# 第六期武蔵野市長期計画(2/2)

## 生涯学習に関わる記載

多くの活動主体によって、市民が多様に学ぶための環境が整備されてきた。さらに生涯学習を推進するため、**人生100年時代に対応した学び直しや、学びを通じた人々や地域とのつながりづくり**等についてさらに取り組んでいく。

また、学校における部活動の生涯学習事業化及び芸術や文化等の鑑賞、体験及び実践に関する**学校教育活動を支援・補完する社会教育活動**について研究を行う。

**図書館**は、ICT機器等を活用することで、図書とデジタルの効果的な連動等により図書館サービスの向上を図る。また、中央図書館については、今後もより良いサービス提供を継続していくため、最適な運営体制について検討していく。

**武蔵野ふるさと歴史館**は、地域の歴史、文化を次世代に伝えるため、歴史資料の収集基準を作成し、収蔵資料の価値づけを行うとともに、歴史公文書の公開に向けた整備を行う。また、各種機関等との連携により、広く教育、学術及び文化の発展に寄与し、研究成果を市民に還元する。

# 武蔵野市公共施設等総合管理計画(1/2)

## 武蔵野市公共施設等総合管理計画とは

- 公共施設・都市基盤施設の老朽化とともに、少子高齢化が予想されるなかでの財政規模の縮小を踏まえ、公共施設等の計画的な維持・更新を行うために策定した計画

## 計画の対象となる生涯学習施設

- 武蔵野ふるさと歴史館
- 市民会館
- 図書館(中央、吉祥寺)
- 武蔵野プレイス

# 武蔵野市公共施設等総合管理計画(2/2)

## 生涯学習施設について検討するべき点

- 生涯学習の拠点施設は、必要な改修や改築を行って、サービスを継続していく。
- 生涯学習への需要は高まることが予測される一方で、類似用途の施設との機能重複(貸館機能など)もみられるため、役割を整理する。
- 中央図書館を中核とした図書館のあり方を確立するとともに、地域や施設の特性に応じた特徴ある図書館を目指す。

# 10

「生涯学習に関する調査」他

# アンケート調査概要

## 調査(1)市民の学びに関するアンケート調査(市民向け)

対象:18歳以上の市民2,500人

回収率:31.6%

## 調査(2)市民の学びに関するアンケート調査(団体向け)

対象:社会教育団体200団体

回収率:71.0%

## 調査(3)周辺自治体アンケート調査

対象:過去1年間に何かを学んだか、学ぼうと思った人、かつこれまでに武蔵野市の生涯学習施設を利用したことのある16歳以上の周辺自治体在住者500人

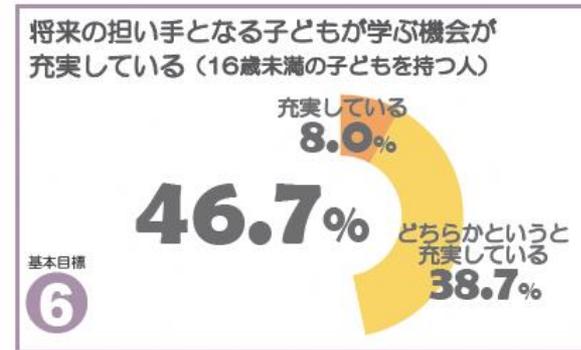
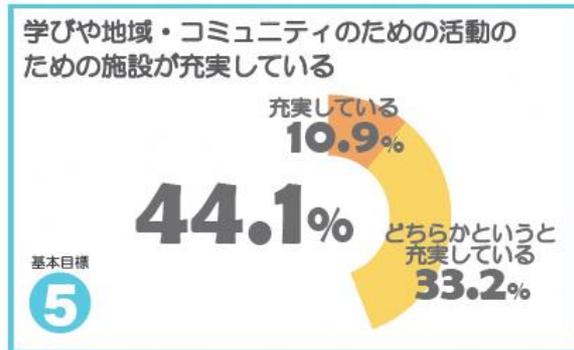
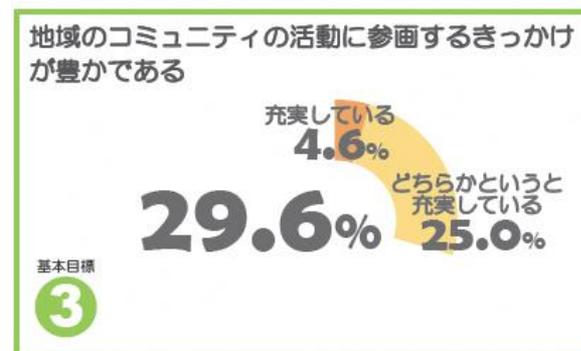
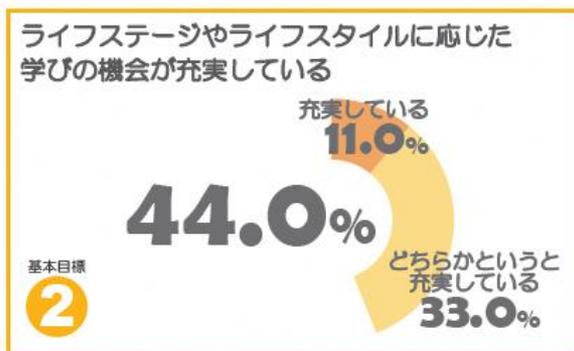
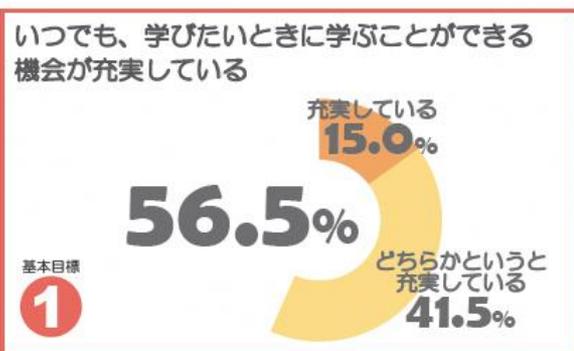
## 調査(4)ヒアリング調査

対象:市内生涯学習施設関係者・団体、障害者団体・ボランティア団体

# 現在の計画に対する市民の実感

# これまでの取組(6つの目標)に対する市民の実感

- 現在の基本目標のうち、「学びの成果の共有」につながる「(武蔵野市は)地域のコミュニティの活動に参画するきっかけが豊かである」と、「市民文化の発信」につながる「市民や地域・コミュニティの活動の魅力が市内外に発信されている」ことについては、十分に実感されていない。



現在の計画における6つの基本目標の達成状況に対する市民の実感

# 3つのポイント

# アンケート調査から得られる3つのポイント

## ● 学びと人と人とのつながり

- 何かを学んだことがきっかけとなってコミュニケーションをしている人は多いが、地域等での活動につなげている人は少ない。
- 生涯学習がまちにもたらす効果として、充実した生活を送る人が増えるほか、地域における人と人とのつながりが生まれると考えている人が多い。

## ● 市民が求める学びの機会

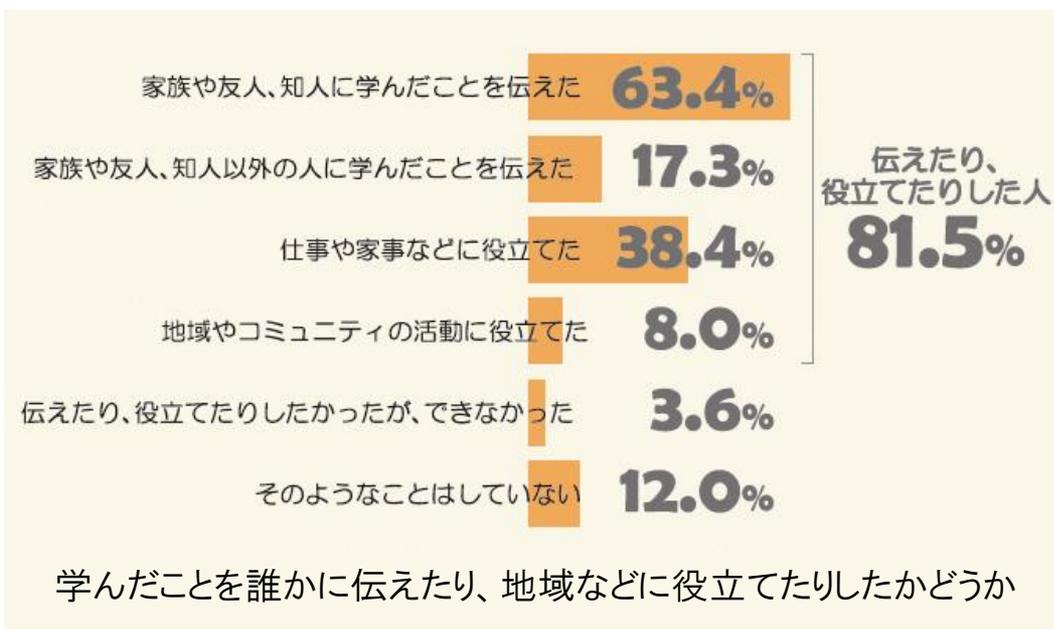
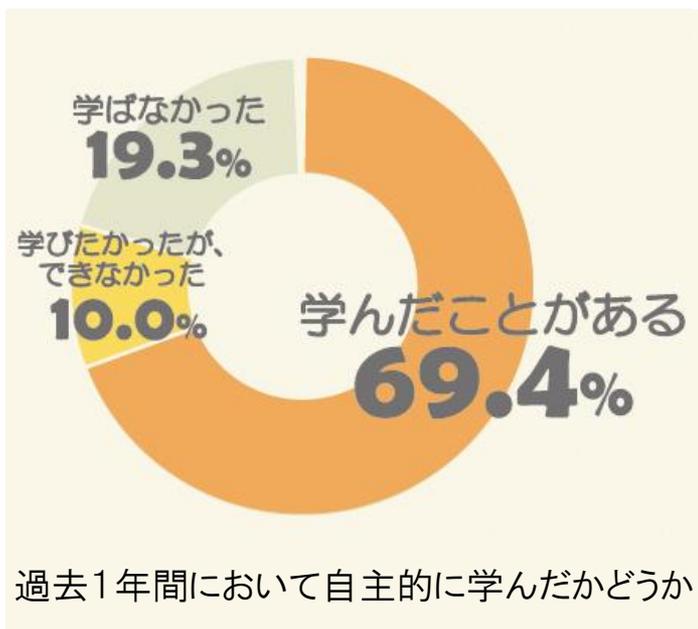
- 生涯学習施策の実施にあたっては、市民の関心やニーズに応えることのほか、学びのハードルを下げるのが求められている。
- 障害者においては、障害の種別や程度に応じた参加の機会が求められている。

## ● 学ぶために必要なこと

- 学ぶことに関心を持ちながらも過去1年間に学ばなかった人(関心層)は、費用負担の少なさや学ぶための機会の身近さ、参加にあたっての気軽さを求めている。

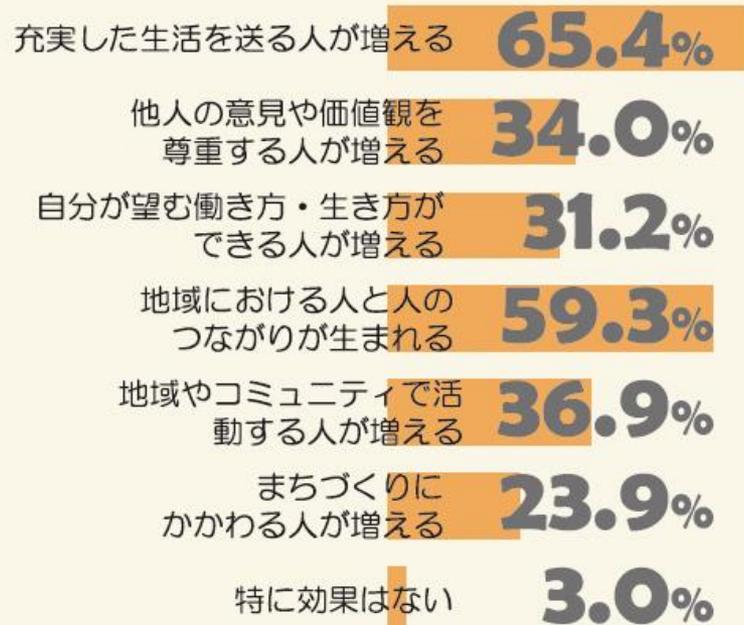
# 学びと人と人とのつながり(1/2)

- 約7割の人が過去1年間に何らかのことを学んでいる。
- 何らかのことを学んだ人のうち、自分の学んだことを家族や友人・知人に話した人は6割強である。地域やコミュニティに活かした人は1割未満である。



# 学びと人と人とのつながり(2/2)

- 生涯学習がまちにもたらす効果としては、人と人とのつながりという回答が多く、関心・行動による違いも大きくない。また、つながりがあることで支え合う関係性が生まれることが期待されてもいる。



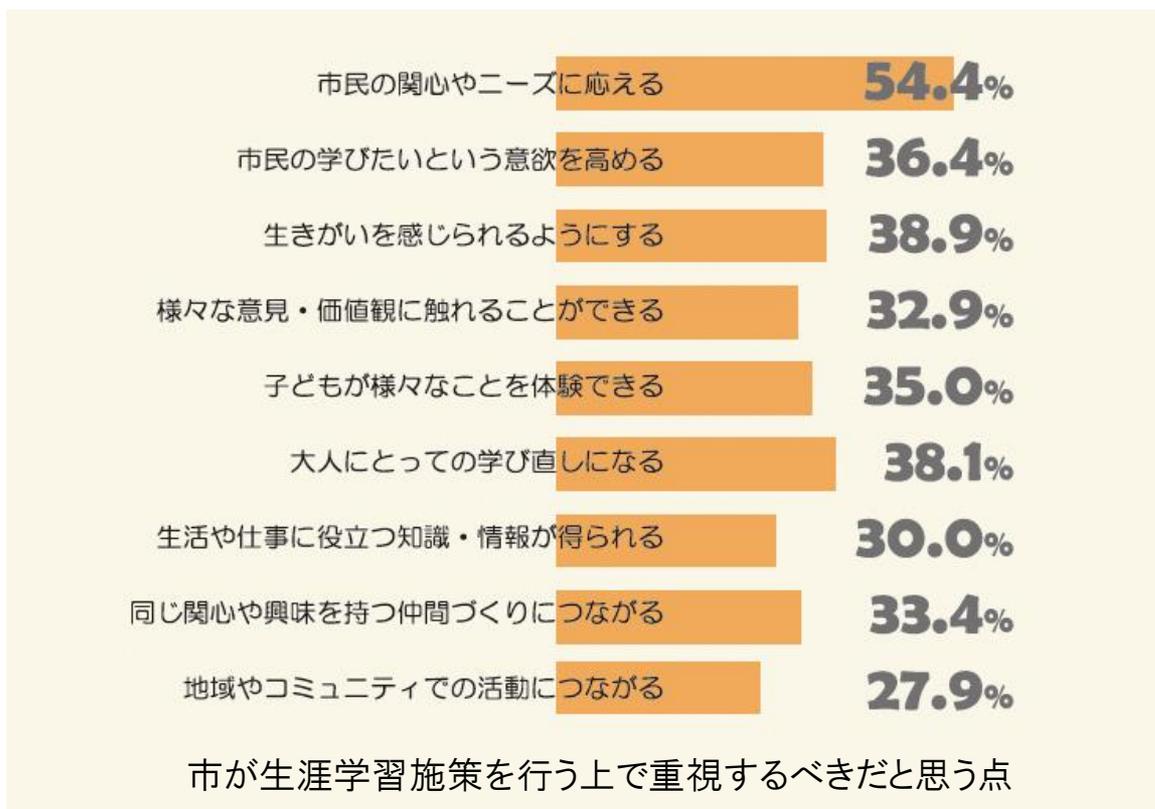
生涯学習が市民にもたらす効果



人と人とのつながりがまちにもたらす効果

# 市民が求める学びの機会(1/2)

- 市が生涯学習の機会を提供する際に重視すべきことは、「市民の関心やニーズに応える」が54.4%で最も多く、「生きがいを感じられるようにする」が38.9%で2番目、「大人にとっての学び直しになる」が38.1%で3番目に多くなっている。



# 市民が求める学びの機会(2/2)

- 回答者の属性別に「市民の関心やニーズに応える」以外に重視すべき点を分析したところ、女性や、常勤社員・職員で働く人、専業主婦・主夫において「大人にとっての学び直しになる」が多いことが見て取れる。

分析軸	属性	重視すべき点	割合
性別	男性	「生きがいを感じられるようにする」	38.9%
	女性	「大人にとっての学び直しになる」	42.1%
就労形態	常勤社員・職員	「大人にとっての学び直しになる」	42.9%
	専業主婦・主夫	「生きがいを感じられるようにする」 「大人にとっての学び直しになる」	48.6% 41.7%
子どもの有無	子どものいる人	「子どもが様々なことを経験できる」 ※子どもの年齢別にみると小学6年生以下の場合に多い。	60.6%

属性別にみた市が生涯学習施策を行う上で重視すべきだと思う点

# 学ぶために必要なこと

- 関心を持ちつつも学ばなかった人(関心層)の理由は「仕事や家事が忙しくて時間がない」が最も多くなっている。
- 何かを学ぶようになるきっかけは、関心層では「あまり費用がかからずにできる」、「学び、調べるための場所が身近にある」が多い。



# 無関心層・関心層・行動層とは

- 学ぶことに対する関心の有無、および過去1年間における学習活動の有無によって次のように分類したところ、行動層が5割を上回った。

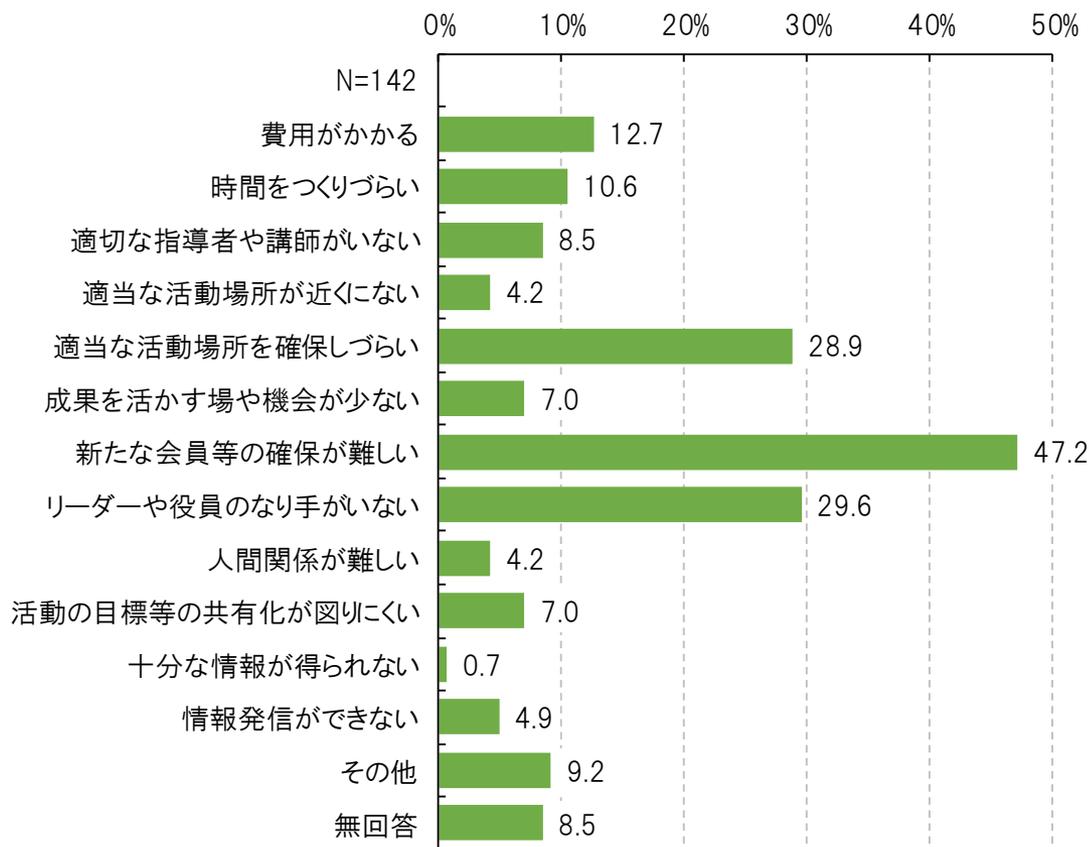
分類	内容	割合
無関心層	学ぶことに対して関心がない(過去1年間で何かを学んでいない)	5.4%
関心層	学ぶことに対して関心はあるが、過去1年間で何かを学んではいない	25.7%
行動層	学ぶことに対して関心があり、かつ過去1年間で何かを学んだことがある	<b>67.6%</b>

関心・行動の度合いによる回答者の分類とその割合

その他、調査から分ること

# 社会教育団体の課題

- 社会教育団体においては、会員の新規加入の減少や指導的立場になる会員が少ないことなどの人的な課題がある。その他、活動場所の確保も課題と考えられている。



社会教育団体が活動を行う上で困っていること

# 社会教育団体の課題今後の活動に対する意向

- 市と協働した活動をしたいと思う団体は約7割と多く、特に学習成果を発表したり、地域等で成果を活かしている団体では約8割に増え、市民との協働の余地が見られる。
- 具体的な内容としては、「イベント当日に参加協力する」が39.3%で最も多く、「交流や仲間づくりのための場をもつ」(37.7%)、「広報・PRの協力をする」(32.8%)が続く。

	合計	交流や仲間づくりのための場をもつ	学習成果の発表の場をもつ	活動場所をお互いに提供しあう	講師・指導者や活動者を紹介しあう	備品等の貸し借りをする	一緒にイベントの企画・準備をする	イベント当日に参加協力する	活動に関する情報提供・収集をする	広報・PRの協力をする	その他	特になし	無回答
全体	(N=142)	31.0	16.2	11.3	13.4	10.6	19.7	28.2	14.8	22.5	3.5	22.5	5.6
個人や団体にくわえて、市民や地域のために役立っている	(N=61)	37.7	18.0	16.4	13.1	16.4	26.2	39.3	21.3	32.8	3.3	13.1	4.9

市と協働した活動に対する意向

# 生涯学習施設の利用実態や市民の捉え方

- 生涯学習施設によって利用の度合いは差が見られる。武蔵野ふるさと歴史館については利用したことのある人は少ないが、史資料の収集・保存・公開は重要だと認識されている。
- 施設それぞれの役割を踏まえながら、市民の利用や参画を促す取組が求められている。

武蔵野ふるさと歴史館  
を使ったことがある人

9.9%

武蔵野市民会館  
を使ったことがある人

37.5%

武蔵野プレイス  
を使ったことがある人

54.9%

これまでに生涯学習施設を使ったことがあるかどうか

調査(5) 文化に関する市民アンケート調査

対象:18歳以上の市民2,000人／回収率:37.9%

# 11

## 意見交換

# 意見をいただきたい論点

---

- 生涯学習の定義について
- 計画で取り扱う生涯学習の範囲について
- 「生涯学習に関する調査」について